



波紋

認定特定非営利活動法人
 教育活動総合サポートセンターだより
 「波紋」 第15号
 発行人 牧田 好央
 題字デザイン・山口正勝

発行所 教育活動総合サポートセンター
 〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8
 TEL : 044-877-0553 FAX : 044-877-0980
 E-mail : support0731@luck.ocn.ne.jp
 ホームページ : http://www.kks-support.sakura.ne.jp/
 印刷 西桜印刷株式会社
 TEL : 03-3568-2543

節目の設立15年目を迎え 更なる前進を

- 情報の共有で活動の活性化を
 - ホームページの活用と広報の促進を
 - 研究の成果を生かした取り組みを
- 本年度もどうぞよろしくお願いたします

認定NPO法人 教育活動総合サポートセンター

理事長 牧田 好央

サポートセンター設立から節目の15年目を迎え、平成30年度がスタートしました。3月17日の理事会、ならびに総会におきまして、藤田力前理事長の後任として理事長に選任されました牧田好央と申します。サポートセンター設立時の先人の意思を胸に刻み、微力ながら精一杯努めてまいりたいと思っております。

設立時から考えますとサポートセンターの活動も年々充実・拡大し、現在29の事業に取り組んでいます。そのどれもが設立時の理念でもある「子たちに力を」の思いに通じるものであります。大きな組織に発展してきたからこそ情報を共有し、所員ひとり一人がその理念を基盤として活動することが求められています。

2月24日(土)に研究報告会を開催しました。「不登校・いじめ等への対応」をテーマに、「合理的配慮による多様な学び」の実践事例研究の成果を報告しました。この研究報告会は、サポートセンターの事業の大きな柱の一つと言えます。30年度も研究体制をしっかり維持して、取り組んでいきたいと考えております。

新年度のスタートにあたり、そ

れぞれの事業の目的を再確認し合い、組織をより機能的なものとして、認定NPO法人としての更なる充実を図っていきたいと思っております。今年度も所員一丸となつて取り組んでまいります。



30年度事業計画

本年度も「子たちに力を」の法人設立の理念に基づき、定款に定められた9つの各分野の事業が一層充実・発展するよう努力していきます。

- ①教育・福祉に係る相談等支援に関する事業
 - ア 教育・福祉相談事業
 - イ 支援を必要とする子の保護者の会事業
 - ウ 川崎市教育会館運営管理業務
 - エ 神奈川県青少年センター「フリースペース等事業費補助」事業
- ②適応指導に関する事業
 - ア 子ども包括支援事業
 - イ 地域における子ども支援と拠

点づくり事業

(子どもサポート旭町)

③学習支援に関する事業

ア 学習支援事業

(子どもサポート宮ノ下)

イ 幸区地域課題対応事業

ウ 川崎市学習支援・居場所づくり事業川崎区

エ 川崎市学習支援・居場所づくり事業幸区

オ 川崎市学習支援・居場所づくり事業宮前区

カ 夏休み特別講座

キ 科学教育の普及・啓発助成事業(サイエンスキッズ)

ク 地域の寺子屋事業(寺子屋 西生田)

ケ 地域の寺子屋事業(寺子屋 たかつ)

コ 地域の寺子屋事業(寺子屋 上作延)

サ 地域の寺子屋事業(寺子屋 鷺沼)

シ 地域の寺子屋事業(寺子屋 富士見つ子)

ス 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

④特別支援教育に関する事業

ア 中原区子どもの発達支援事業(中原区保護者ミーティング)

⑤体験活動等に関する事業

ア ふれあい体験活動

イ 適応指導教室あさお体験広場

に係る管理業務事業

(のびのびファーム)

⑥研究研修等に関する事業

ア 自主研究

⑦青少年の健全育成を図るための環境整備に関する事業

ア 臨時的任用教員研修等指導員配置事業

イ 教育活動サポーター配置事業

ウ 特別支援教育サポーター事業

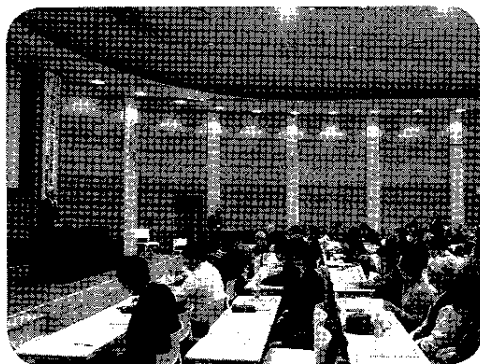
⑧講演会等の企画運営に関する事業

ア 文化講演会事業

イ 輝け☆明日の先生養成事業(含む 不登校児童生徒に関するパネルディスカッション)

⑨文化・スポーツ活動推進に関する事業

ア 大山街道ふるさと館共同運営事業



(鈴木真)

大山街道ふるさと館

平成26年度からふるさと館の指定管理を受け、最終年度にあたり、次期も指定管理が受けられるように職員一同全力を注ぎ所存です。

講演・講座、各種展示の拡充、地域活性化事業の推進など、さらに進めていきます。今年度は街道学習の年2回の開催、新規事業では新たな講座の開設、寄贈品展示のため、常設展示の一部をリニューアルします。子ども小中学生に向けても、子ども探検クラブ、出前授業・職場体験など、地域学習の支援も強化していきます。

(對馬)

教育会館・教育相談

川崎市教育会館は教育関係者の会議で使用される施設です。2年前に各室の空調設備を新しくし、3階和室を洋室の会議室にリニューアルしたことによって、利用者数及び利用団体数が大幅に伸びています。これは利用者の切なる要望と総合教育センター総務室のご尽力のためものです。

ハード面での施設の充実、そしてソフト面でも教育関係者の力作を2階ロビーをギャラリーとして開放し、来館者に楽しんでいただいております。また、教育相談活動の充実にも取り組んでおります。

(坪田)

臨時的任用教員研修等指導員配置

昨年度までは、川崎市の公立小学校、中学校、及び特別支援学校に採用された初任者を対象に、退職校長等を中心に配置し、研修に当たっていました。今年度からは、初めて採用された臨時的任用教員を対象に研修を行うようになりまし。

具体的には、指導員が直接配置校に伺って、各教科の指導、授業の進め方、学級経営、児童・生徒指導等についての指導・助言を行います。

また、日々生じている様々な課題解決に向けての幅広い助言を通し、質の高い指導を目指しています。

(入山)

教育サポーター配置事業

川崎市教育委員会と連携した事業として、市内小・中・高等学校を中心に教員経験者として大学生等を中心に教員経験者、地域の協力者等を配置しています。現在、小学校各校に5〜10人、中・高校に2〜5人、市内小・中学校16校、高校4校に配置されて、合計約80人の方がサポーターとして活動しています。それぞれ学校の状況に応じた支援活動に努めています。各学校からはサポーターへの感謝とこれからの活動に大きな期待をいただいています。

(相川)

「輝け☆明日の先生」の会

「講座やゼミは採用試験だけでなく、日常の生徒と向き合う際に活かせる内容で充実して大変勉強になりました」と受講生の振り返り。昨年からゼミの人数を減らし、小学校5班、中・高特別支援4班の9班で実施しました。現職の先生やOBの先生方の指導で120人の受講生のうち31人、中・高・特支・養19人が川崎市の採用試験に合格しました。今年もタブレット端末を活用したグループ協議、「教師の話」方、実習、高校定時制の先輩教師に学ぶ講座等幅広い講座にしたいと思っております。ゼミでは大学生や社会人から新鮮な意欲を、臨任、非常勤から学校現場を互いに学ぶことができるよさを活かします。

(石川)

平成29年度自主研究

文部科学省の委託事業が廃止されたことから、自主研究として取り組み始め、2年目を迎えました。「不登校・いじめ等への対応」を大テーマに、今年度はサブテーマを「合理的配慮による多様な学びをめざして」としました。

これはサポートセンターが社会資源の一つとして、多様な学びの場となることと、子どもの特性に合わせた多様な学びを提供するという両方の意味を込めたものです。

昨年同様、実践事例の検討を中心にしながら、今年度は学習支援者を対象にアンケートも実施しました。

今年度の取り組みを通して、様々な合理的配慮がなされている

不登校・いじめ等への対応

合理的配慮による多様な学びをめざして

ことがわかりました。文部科学省が示す合理的配慮の観点から見れば、多くの点で不十分ですが、それを補う最も大切なものが見えてきたように思います。



研究報告会から

(齋藤)

今年度も「自主研究」として取り組みました。研究主題は「不登校・いじめ等への対応」とし、副題は「障害者差別解消法により今日的課題になった『合理的配慮』をキーワードにした『合理的配慮による多様な学びをめざして』としました。

最初に研究部長から1年間取り組んできた研究成果及び学習担当者対象に実施した調査結果の報告があり、続いて「合理的配慮」に結びついたサポートセンターでの実践事例について、福祉・相談適応指導部長が報告しました。

後半はパネルディスカッションを実施し、パネリストの保護者、小学校、高等学校、養護教諭経験者、生涯学習財団の方から、日頃の「合理的配慮」についての考えや、実践について話していただきました。その後、フロアでのグループによるディスカッションを経て、全体での質疑応答、意見交換が行われました。参加者から、保護者と学校、各校種間の連携、児童指導支援コーディネーターの人員確保などについての意見が出ました。

最後に運営協議会の岡田守弘委員長より、これからはレジリエンス(抵抗力・回復力)がテーマにな

なってくるだろう、今回の研究のキーワードは「本物」「慮る」であるなどの指導・講評をいただきました。

当日は200人近い参加がありました。きわめて充実した報告会になりました。

(菊地)

様々な自主事業

子どもが学校に行けなくなった「学校の勉強についていけない将来が不安」など子ども自身を抱えている様々な不安・困り感や保護者の悩みなどについて経験豊富な相談担当と一緒に考え、問題解決に向けて支援しています。学習に関する悩みについては、学習担当と連携しながら、一人ひとりに合った個別学習で学習支援を行っています。

電話受付 月〜金9時〜17時

◆支援を必要とする子の保護者の会◆

年3回実施している保護者の会で、不登校やいじめなどの子どもを取り巻く諸問題で悩む保護者同士で、様々な情報交換や解決に向けての助言や支援を行っています。また、支援を必要とする子どもも

◆教育相談活動◆

「子どもが学校に行けなくなった」「学校の勉強についていけない将来が不安」など子ども自身を抱えている様々な不安・困り感や保護者の悩みなどについて経験豊富な相談担当と一緒に考え、問題解決に向けて支援しています。学習に関する悩みについては、学習担当と連携しながら、一人ひとりに合った個別学習で学習支援を行っています。

◆文化講演会等の開催◆

自主事業の取り組みとして不登校やいじめだけでなく幅広いテーマで、市民の皆さんにも参加していただける文化講演会の開催や研究報告会、こどもサポート宮ノ下の学習支援活動などの事業を実施しています。詳しくは当サポートセンターのホームページをご覧ください。

(山田)



学ぶ楽しさ わかる喜び 元気いっぱいの子どもたち

少しずつ自信が...

わたしは、夏休みあけからサポートセンターで算数の学習にとりこんでいます。

サポートセンターで予習をしてから授業をうけるとよくわかって、少しずつ自信がついてきました。復習もするとよいといわれていたので、予習、授業、復習をつづけていきたいと思っています。



冬のおリピックでカーリングの選手たちが日本人としてはじめ銅メダルをとりました。選手たちが声をかけあつて協力してがんばっているのが心に残りました。わたしもがんばろうと思います。

(5年 K・N)

自分からすすんで

ぼくは、サポートセンターに来て、かわつたことがあります。それは、今までやることや見るのがいやだった勉強を、自分からすすんでやるようになったことです。算数もパソコンを使ってやるので、学校よりも楽しいし、分かりやす

いです。

ほかには、先生と話をしたり教科書を見たりしています。それが、自分の知らないことをいろいろと知る、よいきかになりまし

(6年 T・S)

日本語の勉強

私は4年生のときサポートセンターで日本語の勉強を始めました。アメリカから来たばかりで日本語がまったく分かりませんでした。

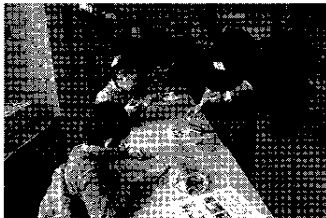
でもお話が好きで、クラスメイトや先生たちといっぱい話しました。今は会話で困ることはなくなりました。日本の勉強で一番たいへんなのは漢字です。なかなか覚えられません。引き算のしかたも違うのでビックリしました。アメリカでは足し算をしながらかたも違えを出すのです。今は日本の引き算が早くできるようになって楽しいです。NPOの先生たち、ありがとうございました。

(中1 E・O)

いろいろな趣味

サポートセンターに通う前は家の中にいて、精神的にもこもりがちでしたが、通うようになってからは自然と外に出る機会が増え、今では精神的にとても楽になりました。自由な時間が増えた事によって趣味の時間も増え、今まで出

僕は中1になって少したったころから学校に行けなくなっていました。その時、親がサポートセンターという所を見つけ、通うことにしました。サポートセンターの先生方



(中3 E・O)

自信と勇氣

僕は中1になって少したったころから学校に行けなくなっていました。その時、親がサポートセンターという所を見つけ、通うことにしました。サポートセンターの先生方

(中3 Y・S)

繋がり

まさか、自分の息子が不登校になるなんて、思いもしませんでした。今は学校へ行かないという息子の選択、自分の意思を貫くことに、誇りさえ感じています。

息子は、中1の夏前から完全にクラスに入れなくなり、当初は親子で言い争うような毎日でした。しかし、早い段階でサポートセンターとの出会いもあり、息子は勉強を教わって少しずつ自信をつけて

来なかった編み物やアクセサリー製作やプログラミング、創作話の書き起こしなど、様々な趣味のおかげで、充実した生活を過ごしています。高校に入った後は、いろいろな人の観点から私に合う進路を一緒に探してもらい、最終的に自分で決めたいと思っています。

(保護者)

は、僕の行動を肯定的にとらえてくれ、そのおかげで自分に自信と勇氣が持てました。そのころテニスにも出会いました。今も夢中でやっています。3年になってからは休まず登校でき、無事に高校に合格できました。高校でもテニスを練習して上手になり、一步一步焦らずに自信を持って成長していきたいです。

(中3 K・A)

4月から高校生

私は、約1年間このサポートセンターに通いました。ここでは理科と社会科の中2の未学習のところから教えてもらいました。定期テストの前には学習のポイントを教えてもらいました。また、入試前には面接練習などもしてくれました。とても良かったです。4月から高校生になります。今まで以上に勉強をがんばりたいです。

(中3 E・O)

のびのびファーム

ゆうゆう広場あさお敷地内にある体験農園「のびのびファーム」活用の総合教育センターからの受託事業です。農業ボランティアの方々や指導の下、近隣の小学校2校と中学校支援級の子どもたちが、ジャガイモ・サツマイモ・大根などの植え付け・種まきと収穫などの食育学習の一環として年間を通して学んでいます。天候により野菜の生育は左右されますが、昨年はどの野菜も大豊作で、子どもたちは大喜びでした。日常的に作物や農場の管理をしてくださるボランティアの方々、に感謝しています。(山田)



こどもサポート宮ノ下

今年度も、たくさんの子どもたちが、居場所を求め学習支援の場を求めてやってきました。30数人の小中高生が新たな進路に向かって巣立ちました。学校に復帰できた子どもも何人もいました。希望を胸に、前を向いて歩み続ける彼らの未来に、幸多かれと祈らずにはいられません。当センターの合い言葉「子たちに力を！」のもと、子どもたちの明日のために、これからも活動を続けていきます。(青木)

学習支援・居場所づくり事業

平成24年4月に生活保護受給者の自立支援施策を推進する部署として健康福祉局に生活保護・自立支援室が創設され、「子どもの学習支援・居場所づくり事業」が始まりました。生活困窮世帯の子どもたちが高等学校に進学し、健全な学校生活を送り、卒業後も大学進学や就労することで、経済的に安定した生活を送ることができるよう、「貧困の連鎖」を防止することを目的として計画された事業です。それぞれの教室に通う子どもたちが、目標を持つよう学習に取り組む、希望する高等学校に進学できるように学習支援を中心に行っています。

対象は川崎市在住の生活保護世帯等の中学生で、現

4	全日制	31	全日制	42
1	定時制	8	その他	3
1	その他	1	私立合計	6
			公立合計	42

(鈴木眞)

在当サポートセンターでは川崎区に川崎教室、幸区に幸教室と日吉教室、宮前区に宮前教室と有馬教室の5教室を開設しています。それぞれコーディネーター、学習支援専門員(教員OB)、サポート(大学生等)が子どもたちの指導に当たっています。当初は中学3年生のみが参加対象でしたが、今では中学1年・2年生も参加できるようになりました。平成29年度に通所した中学3年生48人の進路状況は次の通り。



地域の寺子屋事業

平成26年、「子どもたちが夢や希望を持って前向きに生きて欲しい」という市長の熱い思いを受け、寺子屋事業がスタートしました。

①設置目的

- 子どもたちに様々な学習機会を提供することにより、学力向上や豊かな人間性の形成を図ります。
- 地域ぐるみで児童生徒の教育及び学習をサポートする仕組みを作ることにより、地域の教育力の向上を図ります。
- シニア世代をはじめとする地域人材の知識及び経験を生かして、様々な世代で学ぶ生涯学習の拠点をつくります。

(藤田)



毎週1回の学習教室、月1回の体験活動。これらの目的や内容を受け、サポートセンターでは「西生田」「高津」「上作延」「富士見台」「鷺沼」の五カ所で実践しています。学習教室では宿題や学習プリントを中心に楽しく学習でクイズやゲームにも取り組んでいます。体験活動では「もの作り」「遊び」「スポーツ」などその道の専門家を講師に招き様々な活動を展開しています。

子どもサポート南野川

不登校・引きこもりの子どもたちの居場所として発足した「子どもサポート南野川」も10年目を迎えました。今までの利用者(小学生から18歳まで)は延べ六千人を超えています。学習の作業、収穫した野菜を使つての調理、ものづくり、パズル、卓球等々。自分で選んだ活動をゆつくり積み重ねて心の安定を得、少しずつ自信を取り戻していくようです。進級や進学をきつかけに登校出来るようになった子どももいます。豊かな自然に囲まれながら、次の一歩を育む子ども達の姿を退所後も見守り続けています。(大和田)

子どもサポート旭町

「子どもサポート旭町(愛称STEP&GO)」は不登校や引きこもりの子どもたちが安心して過ごせる居場所です。旭町子ども文化センターの3階和室で月・火・水・木・金の16時まで、学習、談笑、お絵かき、ゲーム、スポーツ等、思い思いに過ごしています。近年小学生の人数が増え、グループで賑やかに遊ぶ姿がよく見られます。川崎区の委託を受け、平成22年に開設しましたが、平成29年度は51人が登録し、延千五百人を超える小・中・高校生が来所利用しました。(中野)

日本語支援 東小倉

日本語支援東小倉には、昨年度は16人が登録していました。小学生が8人、中学生が8人で、アメリカ・中国・フィリピン・ネパールにつながる子どもたちでした。最近では日本国籍を持つている子どもも増えていて、子どもたちの多くは日常会話に問題はありませんが、学習に支障をきたしているようです。学習は一対一を基本としつつも、カルタやすごろく、お楽しみ会などで仲間と交わり、安心して過ごせる居場所となっています。高校生になったお兄さんたちをロールモデルとし、頑張ろうという気持ちを支えていきたいと思っています。(堤)

キッズセミナー

キッズセミナーは、夏休みにいろいろな発展学習、体験学習、実験などを取り入れた学習支援の講座です。5日間午前と午後8講座を開催し、延べ20人の参加がありました。

漢字カルタ・円筒分水・図形マジック・風車・万華鏡・葉脈標本作り・キャンドルスタンド・英語を歌いながらフラダンス・パソコンでプレゼン作り・ボディパーカッションや楽器を使つての音楽会。子どもたちは発見や感動で大喜び、参加した保護者の方々の笑顔が私どもの指導活力となりました。(石田)

サイエンスキッズ

サイエンスキッズの事業は物づくりや自然探究の経験を継続し、学校教育を後方から支援することを目的として13年目になります。昨年度、出前科学教室では、クラブ協力も含め延べ203人の参加がありました。また、キッズセミナーや冬のサイエンスキッズにおいて延べ430人の参加がありました。

今年度も活動内容や教材をさらに工夫し、子どもたちに科学の楽しさを味わい、探究心や創造性が高められるよう努めてまいります。(鈴木博)

編集後記

平成30年度のサポートセンターがスタートしました。新たに牧田好史理事長を先頭に所員約100人の力を結集して、それぞれの事業の新たな展開に努めています。また幅広いテーマの文化講演会の開催などを通して今以上にサポートセンターの認知度を高めたいと思います。

現在、教育委員会等の受託事業21、補助事業3、自主事業5と事業規模も年々大きくなっています。しかしながら経営面ではサポートセンターの活動を支援して下さる各種企業からの協賛金、学校関係者・PTA・保護者そして所員からの賛助金に多くを依存しているのが実情です。さらにサポートセンターへの物心面からのご支援、ご協力をお願いします。(本生)